

第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会



ランチオンセミナー12

2021年3月20日(土) 12:20~13:10

本セミナーは **Web配信**のみです。

視聴いただくには学術集会に参加登録いただく必要があります。

学術集会の参加登録方法は、学術集会のHPをご確認ください。



Program

Thema: COPD

末梢気道 small airway って何だ？

～気道疾患における治療ターゲット～

座長

室 繁郎先生

奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 教授

演者

佐藤 晋先生

京都大学医学部附属病院 リハビリテーション科 病院講師

要旨

慢性呼吸器疾患において、その病態形成において「末梢気道」という部位が注目されるようになって久しく、古くは 1970 年代にまで遡る。当時、臨床現場でおこなわれている呼吸機能検査や画像診断で直接的な評価がし難いため「サイレントゾーン(silent zone)」とも呼ばれ、さもブラックボックス的なものとして語られていた(らしい)。同時に、末梢気道をターゲットとした治療法は、仮にそれを謳うものであっても効果を明確に評価することができず、あくまで間接的な方法で評価されるに過ぎず、ともすれば「うさん臭い」主張と言わざるを得ないものも散見された。近年の画像診断技術の進歩により、従来法に比してより微細な肺・気道の構造変化を評価することが可能となり、同時に機能評価の観点からも末梢気道の機能障害を評価する方法が提唱されている。本ランチョンセミナーでは、こうした診断技術の進歩を紹介し、そしてこれらの技術により明らかとされた慢性呼吸器疾患、特に慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息の病態における末梢気道の関与について最近の知見を紹介したい。そして、末梢気道をターゲットとした治療とはどのようなものが期待できるのか、特に吸入による薬剤デリバリー、それを達成するために何が必要か、考えていきたい。

